

# 造影CT検査のご案内（腹部以外）

## CT検査とは？

- ・放射線を使用して、3次的に撮影する検査です。
- ・レントゲンでは平面の画像ですが、CTでは好きな角度に切って観察できます。
- ・造影剤は、CTで濃くはっきり写るお薬です。造影剤を血流に乗せて流すことで、血流を反映した画像が得られます。
- ・検査直前に点滴をして、その針から造影剤を流します。
- ・検査中は検査台に寝て、輪の中を数回通過します。
- ・CT撮影時間は10分ほどですが、点滴の準備や混み具合によりお時間がかかる場合があります。



▲ CT装置：Canon社 Aquilion Prime SP i-Edition 80列CT

## CT検査前の注意事項

- ・以下に該当する方は事前にお申し出ください。
  - ① 妊娠中あるいはその可能性が否定できない方
  - ② 授乳中の方
  - ③ 造影剤アレルギー、その他アレルギーや喘息のある方
  - ④ ビグアイド系糖尿病薬を使用されている方
  - ⑤ 過去に造影検査を受けて、吐き気や発疹等の副作用と思われる症状があった方
- ・食事制限はありません。
- ・ビグアイド系糖尿病薬以外のお薬は医師の指示に従い、普段どおり服用してください。
- ・造影剤は尿中に排泄されるため、検査前から水分を積極的に摂ってください。
- ・金属のものは画像に影響がありますので、撮影範囲にあるものは外していただきます。
- ・CTは放射線を使用した検査ですが、被ばくは身体に影響を与える量ではありません。

## CT検査後の注意事項

- ・水分を多く摂ると、造影剤がスムーズに排泄されます。
  - ・その他注意事項はありません。
- (ほかの検査がある場合はそちらの指示に従ってください)



▲ レントゲン

▲ CT



# CT 検査の説明書（放射線の影響について）



CT 検査における ①検査内容と必要性 ②当院の取り組み について説明いたします。

## ① 検査内容と必要性（正当性）

身体を詳しく調べるためにCT検査を行います。CT検査では放射線を用いて、体内の様子を細かく撮影することができ、様々な病気やけがの状態を知ることができます。

被ばくの影響については、100 ミリシーベルト（mSv）未満の被ばくにおいて、一定の線量を超えると起こる障害（脱毛や皮膚障害など）は認められません。また、100mSv以上の被ばくでは、被ばく線量の増加とともに発がんのリスクが徐々に上昇するといわれていますが、100mSv 未満の被ばくと発がんとの関係は明確になっていないため、**検査の必要性や有用性が放射線被ばくの影響を上回ると医師が判断した場合に検査を行います。**

## ② 当院の取り組み（放射線検査の最適化）

- ・当院の1回撮影における被ばく線量は表に示す数値前後であり、**通常**のCT検査において**100mSv を超えることはありません。**

- ・当院では、**診断に必要な画像を撮影するために、可能な限り少ない放射線量で検査をできるように、公的機関より提示されている指標（診断参考レベル）を参考に線量の低減に努力しております。**

当院のCT検査における被ばく線量（実効線量）【中央値】 （mSv：ミリシーベルト、被ばくを評価する値）		
検査	当院の実効線量（mSv） （推定値）	
成人	頭部	2.11
	胸部	3.47
	胸部～骨盤	8.46
	心臓（冠動脈）	13.16

2021年における当院実績より

## 身の回りの放射線について

日常生活をする中で、私たちは知らず知らずのうちに放射線を受けています。

宇宙から、そして大地から受ける自然放射線による外部被ばくや、食物や空気中のラドンなど、自然由来の放射性物質から受ける内部被ばくは、合計すると年間で世界平均では2.4 ミリシーベルト、日本平均では2.1 ミリシーベルトになります。



（環境省ホームページより引用）